

撫養港海岸保全施設整備事業の進捗状況報告

撫養港海岸では今後発生が危惧されている東南海・南海地震とその津波による被害を防ぐため、平成18年度から地盤改良及び堤防工事等を行っています。

整備区間2590mの内、今回ご紹介するのは、小鳴門橋東側の大塚製薬(株)の商品壁絵がある大塚倉庫建物の海側で行われている工事についてです。

大塚倉庫の海側では平成26年秋から鋼管杭基礎のL型防潮堤とフラップゲート式陸閘の設置工事を行っています。「フラップゲート式陸閘」については「なるほどみなと講座」で紹介しています。

鋼管杭基礎は直径1.2mあり、長いもので40m以上地盤に打ち込んでいます。工場で約15mに分割された鋼管杭は海上運搬した後、陸上トレーラーで現場に搬入します。その後「三点杭打機」という大型建設機械により打ち込んでいき、途中、分割されている鋼管杭を現場溶接により継ぎ足しながら、所定の長さまで打ち込んでいます。

打ち込みに際し、当現場は倉庫に隣接していることから、打撃による打ち込みではなく、中掘り工法という振動が少ない工法を採用して工事を進めています。

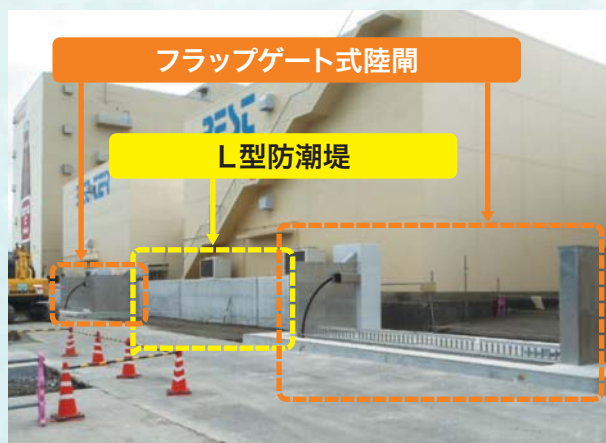
L型防潮堤とフラップゲート式陸閘は、鋼管杭と一体となるよう、鋼管杭上部に鉄筋を組み立ててからコンクリートを打設しています。また、フラップゲート式陸閘は4基設置する予定です。

この鋼管杭基礎により、地震時にも倒壊せず津波を防ぐことができる防潮堤となります。

大塚倉庫海側での工事期間中は、安全確保のため立ち入りを禁止しております。皆様方のご理解とご協力を引き続きお願いいたします。



↑ 工事実施場所 位置図



↑ L型防潮堤及びフラップゲート式陸閘(9月)



↑ 鋼管杭打設状況(3月)



↑ 現場に搬入された鋼管杭(3月)